

バスケットボールの誕生と関学大バスケットボール部の歴史 伝統の灯りは消えていなかった

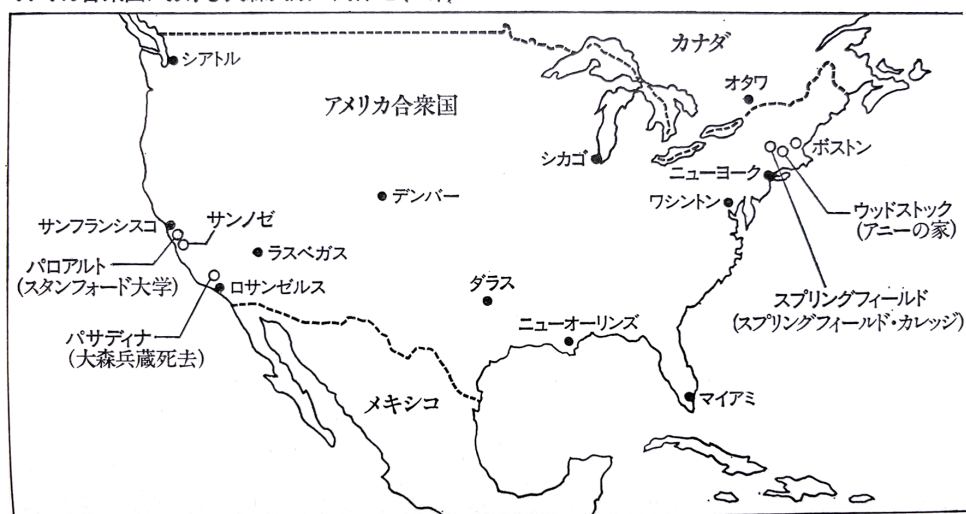
バスケットボール部 小谷茂秀（昭和 51 年卒）

1. バスケットボールの誕生

1885（明治 18）年アメリカ北東部マサチューセッツ州スプリングフィールドというところに、キリスト教奉仕者学校が設立されました（1891 年、国際 YMCA トレーニングスクールと改称、1954 年に現在のスプリングフィールド・カレッジとなりました）。創立当時、全米各地で急増していた YMCA は、今日のいわゆる社会体育・スポーツ施設としての先駆的役割を發揮し始めていました。

それとは別に、この学校は YMCA における一般事業担当主事（総務、会館、宗教、会員などの部門の担当主事）の養成を目的として、キリスト教奉仕者学校という名前で発足しました。ところが間もなく体育・スポーツの指導者の必要性が高まり、その指導者養成のために体育部主事養成科が増設されました。

アメリカ合衆国における大森兵蔵の関係地（○印）



スプリングフィールドは冬の間、かなりの雪が降るため屋外スポーツは出来ません。このため冬季に屋内でできる新しいスポーツが必要となり、面白くて覚えるのも、プレーするのも簡単でなくてはならない新しいゲームの考案が課題となりました。1890 年カナダからこの学校に入学してきたジェームス・ネイスミスは、翌 1891 年に体育部主事養成科の 1 年制コースを終了すると同時にインストラクターとして採用されました。彼は体育部主事養成科のチーフから研究課題として、冬季に体育館で出来る新しいゲームの考案を課題として与えられました。彼は試行錯誤を繰り返した後、ついに今日のバスケットボールのゲーム形式を案出しました。1891(明治 24)年 12 月 21 日できたてホヤホヤの新しいゲームが始まりました。ボールはサッカーボール、ゴールは何と桃の収穫籠でした。籠とボー

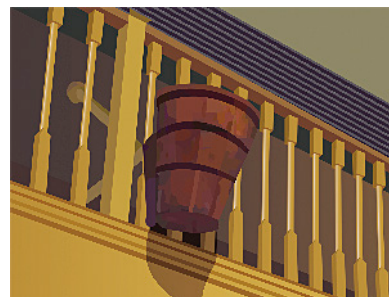
ルを使うのでバスケットボールと命名されました。

J・ネイスミスの苦心作は大成功でした。国際 YMCA トレーニングスクールの冬季の屋内スポーツ問題は一気に解消しました。そればかりか憂慮していた冬季の体育館におけるプログラムの願っても無い福音となり、瞬く間に全米の体育・スポーツ界に根付いていきました。

《参考》

①初期のルール

- ・ゴールは当初、桃の収穫籠を利用しましたが、籠には底がありました。
- ・体育館 2 階のランニングトラックの柵に籠が取り付けられ、高さが決まりました。
- ・メンバー数はコート広さにより変化しました（最初のゲームは 9 人对 9 人）。
- ・ドリブルは無く、パスのみでした。
- ・得点は 1 点です。
- ・バックボードは最初ありませんでしたが、観客が妨害し始めたので防止用として付けられました。



②バレーボールの誕生

バスケットボールはあっという間に広まりましたが、初期のバスケットボールは、プレーが非常に乱暴で怪我も多く、また中高年や女性には運動量が多すぎました。誰もが気楽に楽しめるスポーツが必要ということで、必然に迫られてバレーボールが考案されました。ボールが地面に着く前に打ち返す（Volley）ことで、Volley Ball と名づけられました。バスケットボールが考案されてから 4 年後のことです。

2. 日本への伝来

1905（明治 38）年、大森兵蔵氏（岡山県出身）が国際 YMCA トレーニングスクールに入学、2 年後に卒業、その後帰国し、1908（明治 41）年、東京 YMCA 初代体育主事に就任し、バスケットボール、バレーボールを初めて日本に伝えました（日本にバスケットボールを紹介し、発展させたのは YMCA であることに間違いはありませんが、誰が伝えたかについては先人争いがあります）。

関西には関学 OB 宮田守衛氏（元院長宮田満雄氏の父）がいました。氏は 1907（明治 40）年に関学を卒業後、スプリングフィールドの国際 YMCA トレーニングスクールに入学、そして卒業後の 1912（明治 45/ 大正元）年、神戸 YMCA の総主事として帰任、この新しいスポーツの普及に尽力されました。

3. そして関西学院へ（関西学院大学バスケットボール部の創部）

関西学院の中でバスケットボールが具体的に動き始めるのは、大正 11 年です。1922（大正 11）年に関学の体育主事として赴任した A.C. ブラッドレイ氏は神戸 YMCA の体育主

事も兼任していました。彼から手ほどきを受けたのが1923（大正12）年に入学してきた初代主将広瀬満直氏でありました。

この年、広瀬氏によってテニス・サッカー・陸上部の同期の仲間が集められて始まったのが、わがバスケットボール部の創部となりました。コートは原田の森校舎、グラウンド西南片隅の野外でありました。

- ・ 同年第1回全関西選手権大会が開催されるもメンバーが揃わず棄権
 - ・ 翌1924（大正13）年、第2回全関西選手権大会3位
 - ・ 1925（大正14）年、明治神宮競技大会準決勝で早稲田大学と対戦するも9－23で敗退（早稲田大学が優勝）
 - ・ 1926（大正15／昭和元）年、運動部（現体育会）として承認される。
早稲田大学との定期戦が始まる（日本最古の定期戦、2016年に87回大会）
 - ・ 1927（昭和2）年、第1回関西リーグ戦優勝、第4回全関西選手権大会優勝
 - ・ 1939（昭和15）年、明治神宮国民体育大会で初の全国制覇
- OB/ 現役の混成チーム関学倶楽部として出場



（写真提供：執筆者）

4. バスケットボール部の歴史（黄金時代）

関西学生バスケットボール創成期の基礎をつくったと言われている当部は、戦前から戦中にかけて輝かしい戦績を残し、関西学生リーグ戦や西日本学生選手権等を数多く制しています。当時は、優勝するとチャペルの時間に優勝旗・優勝カップが飾られ最前列で院長から祝辞、賛美歌で祝福してもらった時代もあったようです。この間多くの名選手を輩出しましたが、なかでも波部久太郎（昭和 10 年卒）、大久保修造（昭和 21 年卒）は、日本代表選手として選抜され、国際大会等で活躍しました。

また、戦後においても当部は関西の雄として名を馳せました。特に、1950（昭和 25）年～1960（昭和 35）年までの 11 年間は、リーグ戦 7 回、西日本学生選手権は 4 連覇を含む 6 回の優勝を遂げており、正にこの時期は戦後の黄金時代と呼ばれています。1954（昭和 29）年には第 1 回近畿総合選手権で松下電器産業（現パナソニック）を破り優勝、全日本総合では学生 2 位の日大を破り全日本総合 5 位となっています。しかし、これ以降は永く低迷することとなりました。1975（昭和 50）年、スポーツ推薦の無い時代において 15 年ぶりとなる奇跡の関西リーグ戦優勝を果たしたものの、その後は再び低迷、二部落ち、三部の入替え戦も経験するなど厳しい時代が続きました。

5. バスケットボール部の歴史（復活期）

1995（平成 7）年からスポーツ推薦復活による選手補強が奏功し、1998（平成 10）年には 23 年ぶり関西リーグ戦優勝、翌 1999（平成 11）年には 38 年ぶりに西日本学生選手権を制覇し、古豪復活との賞賛を得て「伝統の灯りは消えていなかった」ことが証明されました。

また、1995（平成 7）年には女子部が創部、創部 20 周年となる 2015（平成 27）年にブレイクスルーし、西日本学生選手権準優勝、関西学生女子選手権 3 位、関西リーグ戦 4 位となり、新たな女子部の歴史を刻み始めています。

参考：水谷豊著『白夜のオリンピックー幻の大森兵蔵をもとめてー』（平凡社、1986 年）

：関西学院大学体育会バスケットボール部 60 年史

：バスケットボール部 OB（S31 卒） 谷 紳一氏



(写真提供『関学スポーツ』)



(写真提供『関学スポーツ』)